

●目次

特集 = 地質汚染 (Geo-pollutions)

1 地質環境における新しい単元の形成	2
榆井久 + 佐藤賢司 + 鈴木喜計 + 古野邦雄	
2 君津市内箕輪の地質汚染 - 汚染機構の解明から浄化対策まで	
鈴木喜計 + 榆井久 + 品田芳二郎 + 原田泰雄 + 佐藤賢司	
① 有機塩素系溶剤による地質汚染とは	10
② 汚染の発見から基本計画の策定まで	14
③ 地質汚染機構解明調査	17
④ 浄化対策	33
⑤ 地質汚染をめぐって	42
3 南房総のクリーンな町	50
千倉地質汚染調査チーム	
4 高槻地域における地下水質と地質	60
三田村宗樹 + 殿界和夫	
5 地下水汚染および土壌汚染に係る環境基準等	64
近藤恵美子	



アーレーションタワー全景 (高槻市水道部大冠浄水場)

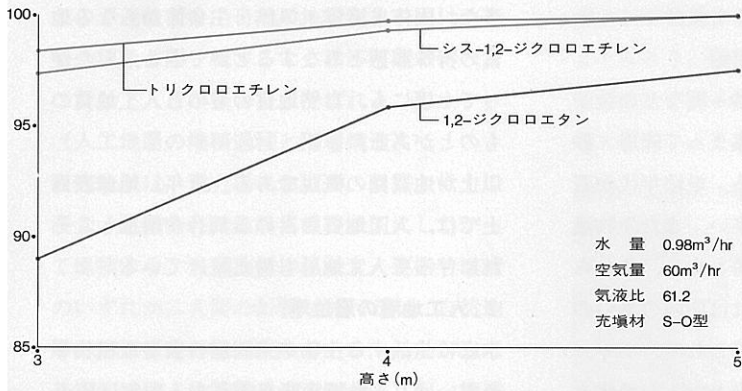
アーレーションタワー仕様

式: 充填塔方式  
 理能力: 1基当り 180m<sup>3</sup>/時  
 法: 直径 2,700mm 高さ 7,000mm  
 充填材高さ 5,000mm  
 数: 5基  
 填材: ポリプロピレン製 テラレットS-O型

送風機仕様

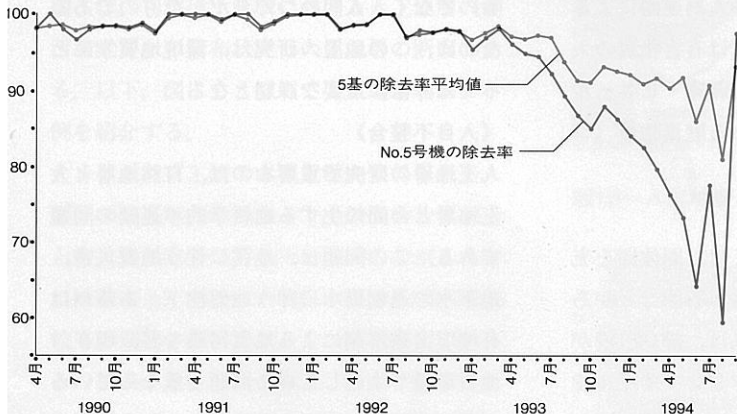
型 式: 片吸込エアホイル型  
 仕 様: 300m<sup>3</sup>/分 × 130mmAq × 11kw  
 台 数: 5基

2-1 実験塔による有機塩素化合物の除去率



実験塔(直径200mm, 高さ6m)による結果。処理水量: 送風量が61.2倍という条件のもとで、充填塔高(処理時間)による物質ごとの除去率の上昇を調べた。1,2-ジクロロエタンは、旧装置の高さ3mでは除去率が88%で処理能力が不足し、高さ5mでも気液比を上げなければ、処理目標の1µg/l以下を達成できない。

3-1 エアレーションタワー稼働と1,2-ジクロロエタンの除去持続特性



廃したエアレーションタワー(写真)による除去率の経年変化。稼働後3年に近づくると除去率が低下を示すので、2年ごとに塔内上部の充填材を取り出し、水で洗浄すると除去率は完全に回復する。



発行所 = 株式会社クボタ 広告宣伝部

大阪市浪速区敷津1丁目2番47号 TEL <06> 648-2612 (ダイヤルイン)

発行日 = 1995年9月

編集製作 = (有)アーバンクボタ編集室

図版作成 = スタジオ・ツノ

印刷 = 大日本印刷株式会社大阪工場